

幼児の活動

準備物

☆幼児の思い ◆教師の援助

◎環境構成

エース棒・ソフトハードル・ケンステップ・一輪車・補助スタンド・フープ・固定遊具・砂場道具・草花・飾り・テーブル・椅子 等

楽しそう！遊んでみよう！

紙粘土・自然物・空き容器・カップ・皿・トレイ・トング・ナフキン
ボール・ゴール・ピブス・白線ひき・ベンチ
フープ・駅・コーン・スケータースタンド 等

友達と一緒に遊ぼう！

4歳児 <カフェごっこ>
 ☆「クッキーください！」「(店の人に) よして！」
 ◆5歳児の遊びに関心を示して客になったり、模倣しながら店の人になったりする姿を認め、楽しさに共感する。
 <電車ごっこ>
 ☆「電車に乗るの、楽しいな」「運転手やりたい！」
 ◆順番に運転手ができるように言葉掛けをし促す。
 <集団遊び(サッカー・ドッジボール・鬼ごっこ)>
 ☆「5歳児さん楽しそうだな」「ボールを蹴りたい！」「つかまらないうに) 逃げよう！」
 ◆一緒に遊びながら楽しさに共感し、ルールの必要性に気付いたり考えたりできるように促す。

5歳児 <カフェごっこ>
 ☆「いらっしゃいませ！」「少々お待ちください」「飲み物はいかがですか？」「〇円になります」
 ◆遊びの中で役割を考えたり友達と分担したりする様子を取りあげ、関わりが深まるようにする。
 <電車ごっこ>
 ☆「運転手やりたい！」「お客さんがいると嬉しい」「駅の名前はなにしよう」
 ◆友達と「電車に乗る」という共通のイメージをもちながら遊ぶ楽しさに共感し、関わりが広がるよう言葉掛けをする。
 <集団遊び(サッカー・ドッジボール・鬼ごっこ)>
 ☆「点を入れて嬉しい！」「ボールを思いつき蹴って(投げて) 楽しい！」「(鬼に見つかりそうで) ドキドキする」「靴を取り返して！(応援しているよ！)」
 ◆トラブルやルールの伝達の場面では、自分の思いや考えを十分伝え合うことができるよう必要に応じて援助する。

カフェごっこ
 ◎イメージを十分表現できるよう、幼児の思いに沿った自然物を、一緒に準備・補充する。
 ◎互いの工夫やイメージを知り、周りの幼児が気付くことができるよう、展示するスペースを作る。



電車ごっこ
 ◎遊びの動線を考えた駅の置き方を提案し、遊び込めるよう配慮する。
 ◎イメージを広げながら遊ぶことができるよう、幼児の思いに沿ってベンチや駐車場等を準備する。



集団遊び(サッカー・ドッジボール・鬼ごっこ)
 ◎自分たちで用意ができるよう、ピブス・ゴール等の環境を整えておく。
 ◎必要に応じて環境を整えることができるよう白線引きやベンチ等を準備しておく。



4歳児 <運動遊び>
 ☆「(フープが) 回せるようになったよ」「先生、見て見て！」「こんなコースを作ったよ」
 ◆「見てほしい」「楽しい」という気持ちを受け止め、その都度喜びに共感し、意欲や自信につながるようにする。
 <ままごと>
 ☆「水を入れるとスープができるよ」「ケーキの飾り付けをしたよ」
 ◆幼児と一緒に遊びながらイメージを共有し、遊び込めるようにする。

5歳児 <運動遊び>
 ☆「できるようになったから、見てて！」「(うんでいやのぼり棒は) こうやって持つと落ちないよ」
 ◆「できるようになりたい」「教えてあげたい」という自分なりのめあてをもつ気持ちを受け止め、自信につながるようするとともに、周りの幼児と関わりが深まるようにする。
 <ままごと>
 ☆「みんなで大きな山(穴)をつくらう！」「レストランをするから机が欲しい」
 ◆幼児同士の関わりを大切にし、必要に応じて遊びに参加しながら見守る。

運動遊び(サーキット・一輪車・固定遊具 等)
 ◎サーキットを自分たちで用意できるよう、遊具を準備しておく。
 ◎発表することができる場を設ける。



ままごと
 ◎一緒に遊びながら幼児のイメージを知り、幼児自身が必要なものを考えたり用意したりすることができるようにしていく。
 ◎幼児同士の関わりが深まるよう、遊び場を保障し、必要な物を自分たちで用意できるよう、遊具や道具を準備しておく。



考えて遊ぼう！

カセットテープ・デッキ・マイク・けん玉・衣装・段ボール・空き箱・紙・ひも・どんぐり・ホース・ガムテープ・セロテープ 等

4歳児 <発表ごっこ>
 ☆「好きな踊りをしたい！」「友達と一緒に踊るの楽しいな」「次は何をしよう」
 ◆幼児の思いに寄り添いながら環境を整えたり、自信をもって楽しく発表する姿を認めたりしながら、意欲的に取り組めるようにする。
 <秘密基地>
 ☆「ここに寝転ぶと気持ちがいいな」「枕や布団もあるんだね」
 ◆幼児の発見に共感し5歳児の作るイメージを4歳児につないでいく。
 <どんぐり迷路>
 ☆「転がすのって楽しいな」「あそこまで転がったよ！」「このトンネル面白いね」「転がしてもいいのかな？」
 ◆どんぐりを転がす面白さに共感しながら5歳児の姿に気付かせ、いろいろな遊び方に気付くことができるよう言葉掛けをする。

5歳児 <発表ごっこ>
 ☆「できるようになったから見て！」「小さい組さん一緒に踊らう！」「次(の発表)は〇〇です。〇〇の人をお願いします」
 ◆見てもらうことを意識している様子を取りあげ、「発表者」「司会者」「音響係」等の役割の工夫を認めたり周りに知らせたりする。
 <秘密基地>
 ☆「入る時は合言葉か鍵があるよ」「ここにドアを付けよう」
 ◆幼児のイメージを把握し、必要に応じて材料を準備したり一緒に作ったりする。
 <どんぐり迷路>
 ☆「ここで曲がることにしよう」「トンネルを作らう」「こっちの道を通るようにしたいんだけど…」
 ◆新しい道やルールについて、考えたり試したりする姿を認め、喜びや達成感に共感する。

発表ごっこ
 ◎幼児が自分たちで遊びを始めることができるようダンスの道具や楽器、音響のための道具等を準備しておく。
 ◎見ることで参加できるよう、椅子や楽器を用意しておく。



秘密基地(ポケモンごっこ・ホテル)
 ◎安全に配慮しながら、幼児の思いや工夫が生かせる場を考える。
 ◎幼児のイメージに添って必要な材料を提案できるように準備しておく。



どんぐり迷路
 ◎いろいろな迷路を試したり、工夫したりすることができるよう、材料を準備し、幼児の思いに寄り添いながら提示できるようにしておく。



9 評価の観点

◎幼児(評価する時の幼児の姿)
 ●教師

4歳児
 ○友達と一緒に遊ぶことを楽しめていたか。
 ○好きな遊びを見つけて遊び込めていたか。
 ●友達と関わりながら遊ぶ楽しさを感じることができるよう援助や環境構成の工夫をしていたか。
 ●遊びのイメージや楽しさが膨らむような援助や環境構成がされていたか。

5歳児
 ○友達と思いや考えを伝え合いながら楽しく遊んでいたか。
 ○自分なりに考えたり工夫したりしながら遊んでいたか。
 ●友達と関わりながら遊ぶ姿を見取り、適切な援助や環境構成ができていたか。
 ●いろいろな思いや考えを受け止め、遊びを深める援助や環境構成ができていたか。